

診療科目 ● 皮膚科学

プログラム責任者：相原 道子

附属病院	
主任教授	相原 道子（皮膚科部長）
准教授	和田 秀文、猪又 直子
講師	山口 由衣
助教	井上 雄介、大川 智子、渡邊 友也、磯田 祐士、岡田 里佳
附属市民総合医療センター	
准教授	蒲原 毅（皮膚科部長）
講師	中村 和子
助教	河野 真純

本プログラムの特徴

後期研修の3年間を通して、皮膚科専門医としての幅広い知識と診療技術を習得することができるよう、大学および協力施設の両方で研修する。臨床研究にも積極的に加わり、研究者としての視点を養いおよび研究手法を学ぶ。

1年目：

1. 皮膚科医としての基本的な知識を身に付ける。具体的には皮膚科内外の講師によるクルズス受講、教室主催の各勉強会への参加、病理カンファレンス・抄読会・症例カンファレンスへの参加およびそこのプレゼンテーションを行なう。
2. 皮膚科診療の基本的技術を習得する。病棟診療（担当医）および外来診療（一般・特殊外来担当医）を通して、診断・治療の進め方を理解する。各種皮膚検査法・皮膚生検・小手術・光線療法・冷凍凝固法などの治療の基本技術を修得する。



2年目・3年目：

皮膚疾患の病態・皮膚病理についての知識を深めつつ、独立して診断できる能力を身につける。基本的には横浜市立大学医学部皮膚科学教室協力（病院）施設（日本皮膚科学会認定研修施設）で各指導医のもとで、2年間の臨床研修を行う。当教室主催の勉強会へ参加し、協力施設で担当した症例の発表を行う。可能な限り横浜市立大学医学部附属病院での特殊外来・中央手術などに参加し、専門性の高い診断・治療能力を身につけ、臨床研究にも加わる。



皮膚科認定専門医受験単位の所得：

学会講習会への出席のほか、学会発表・論文発表を積極的に行い、日本皮膚科学会総会・東京支部総会・東京地方会をはじめ、関連した専門性の高い各種学会、研究会への参加・発表を行う。

目 標

- 1) 皮膚疾患の病態を理解し、疾患の説明ができる。
- 2) 皮膚病理組織診断ができる。
- 3) 皮膚疾患の診察・検査・治療（手術を含む）ができる。
- 4) 皮膚疾患症例について各種学会、研究会での発表や論文作成を行う。

目標とする学会認定専門資格

日本皮膚科学会専門医

日本アレルギー学会専門医

主な協力病院

横須賀共済病院、横浜市立市民病院、平塚共済病院、小田原市立病院、横浜南共済病院、横浜栄共済病院、茅ヶ崎市立病院、藤沢市民病院、国際医療福祉大学熱海病院、横須賀市立市民病院、神奈川県立こども医療センター、神奈川県立がんセンター、国立災害医療センター、横浜保土ヶ谷中央病院、横須賀市立うままち病院、汐田総合病院、大森日赤病院、藤沢湘南台病院、神奈川県リハビリテーション病院、県立汐見台病院、県立足柄上病院、済生会若草病院

診療科のホームページ URL

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~hifukav1/>

担当者・連絡先

井上 雄介

診療科の実績

横浜市立大学附属病院においては、
 外来受診人数 30,318名（1日平均 126名）
 延入院患者数 5,414名 平均在院日数 12.6日
 年間手術件数 外来手術：約 604件、中央手術：139件（多くが全身麻酔下皮膚悪性腫瘍切除）
 専門外来：アトピー性皮膚炎・蕁麻疹外来、乾癬外来、膠原病脈管外来、水疱症外来、腫瘍外来、パッチテスト・ブリックテスト外来、毛髪外来

横浜市立大学市民総合医療センターにおいては、
 入院患者数 3,497名（平均在院日数 9日）
 外来患者数 19,018名（1日平均 77.9名）
 入院手術件数 156例

指導医から一言

後期研修中に皮膚科専門医としての知識、技術を取得することは第一目標です。それに加えて、常に科学者として医学を研究する姿勢を身につけて欲しいと思います。それには一人一人の患者さんとじっくり向き合い、疾患と人間全体の両方を捉えることが重要です。大学の特殊外来に加わったり、文部科学省や厚生労働省の班研究に協力したり、さらに大学院に入って研究するのも選択肢のひとつです。若さは知識の吸収力だけでなく、豊かな想像力を与えてくれます。われわれと一緒に、新しい医学を切り開く道があるいてみませんか。なお、大学の扱う重要疾患や研究テーマは以下のとおりです；皮膚アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー、接触皮膚炎）、免疫自己免疫疾患（膠原病、水疱症）、皮膚悪性腫瘍、かゆみのメカニズム、環境汚染物質と皮膚疾患、免疫の制御機構の研究など

シニアレジデントからのメッセージ

2015年4月から皮膚科シニアレジデントとして研修させていただいています。
 外来では、初診や専門外来を担当し、アトピー性皮膚炎などの一般的なものから、乾癬や膠原病、水疱症などのめずらしいものまで様々な疾患に触れることができます。また病棟では、重症蕁麻疹や壊死性筋膜炎などの緊急疾患から悪性黒色腫などの悪性疾患を経験でき、全身管理の勉強にもなります。
 何かわからないことがあれば快く教えて下さり、とてもあたたかく、学びやすい環境だと思います。